

1 調査の概要

1.1. 調査実施方法等の概要

1.1.1. 調査の目的

子どもの貧困対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的として、「宮崎県子どもの生活状況調査」を実施した。

この調査では、宮崎県内の子ども（中学2年生）及びその保護者に対し、現在の生活・経済状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子どもの貧困対策に関連する施策の利用状況、新型コロナウイルス感染症による影響等について把握するための項目を設けた。

この報告書は、上記の調査結果について、子ども及びその保護者の回答をセットとして集計・分析を行ったものである。集計・分析は、下記のA～Eの観点を踏まえて実施した。

- A 子どもと保護者の生活・行動実態を明らかにし、課題等の把握を行う
- B 子どもと保護者の生活・行動実態に関して、現在の貧困等との関連性を把握し、「貧困の連鎖」等のリスクの状況を明らかにする
- C 新型コロナウイルス感染症の影響を明らかにする
- D 子どもの貧困対策に関連する施策の利用状況や効果等を明らかにする
- E 内閣府が実施した「令和2年度 子供の生活状況調査」（以下、「全国調査」という。）と比較する

1.1.2. 調査の仕様

（1）調査対象者、標本数、サンプリング方法

宮崎県内の中学2年生がいる世帯（子ども及びその保護者）を調査対象とし、該当する10,047世帯の中から、市町村ごとの世帯数の比率に応じ、5,500世帯のうち5,014世帯について無作為抽出を行った。

延岡市については、本調査における調査項目を含む調査を独自に実施したため、宮崎県が実施する調査の対象から延岡市分486世帯を除外し、調査終了後に延岡市が実施した調査の回答データを加えることで回答データを補完した。

（2）調査方法、調査期間、有効回収数・回収率

調査票を調査対象世帯に郵送し、回答方法は調査票に同封した返信用封筒にて返信する方法、又は調査票に掲載したオンライン調査システムへリンクされたURLから回答する方法のいずれかを回答者が選択することができるようにした。

調査期間は令和4年10月31日（月）～11月30日（水）として実施し、延岡市分を含む有効回収数は1,944件（組）、回収率は35.3%であった。

(3) 調査委託機関

本調査は、協同組合鹿児島みらい研究所への委託により実施した。

(4) 本報告書を読む際の留意点

- 設問文の末尾に示した「SA」は単一回答形式 (Single Answer)、「MA」は複数回答形式 (Multiple Answer) を示している。
- 図表内の「n=〇〇」はその設問についての有効回答者数 (集計対象件数) を示している。
- 回答の比率 (%) は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、単一回答の設問の各選択肢の回答に関する数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。

(5) 調査の設問

調査項目は、全国調査及び「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」(内閣府)を基本とし、宮崎県子どもの貧困対策協議会委員、市町村担当課及び県庁内関係所属の意見を踏まえ、下記のとおり一部文言の追加・修正を行ったほか、調査項目を追加した。

ア 保護者票

- 問 11 働いていない最も主な理由の選択肢について、全国調査の「家族の介護・介助のため」を「子どもの病気・障がい」と「その他の家族の介護・介助」に分割
- 問 14 「あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。」に「e ニュースの話をする」「f SNS等の話をする」「g 夕食は子どもに作ってもらう」「h 夕食は一緒に食べる」を追加
- 問 15 「あなたは、次のようなことをどの程度していますか」に「c 部活や校外活動に参加している」を追加
- 問 26 コロナ前後の生活の変化について、「g 家にいる時間」を追加
- 問 28 「あなたは、問 27 の制度以外に、どのような支援があるとよいと思いますか。」を追加

イ 中学生票

- 問 5 「あなたは学校にどのくらい通っていますか。」を追加
- 問 11 「あなたはどのくらい、食事をしていますか。」に「d 土・日曜日・祝日の昼食」を追加
- 問 11-2 「あなたは主に誰と食事をしていますか。」を追加
- 問 15 ここ半年の状況について、「p 私は、学力が低下している。」「q 私は、体力が低下している。」を追加
- 問 16 コロナ前後の生活の変化について、「h ずっと家にいると息が詰まったりすること」を追加
- 問 18 「あなたは、次のような場所や支援を利用したことがありますか。」に「d こども宅食・フードバンク」「e スクールソーシャルワーカー」を追加
- 問 20 「あなたは、自分で自由に使えるお金（お小遣い）がありますか。」を追加
- 問 21 お小遣いがある場合、「その金額はどのくらいですか。」を追加
- 問 22 「あなたは、どのような支援があるとよいと思いますか。」を追加

1.2. 調査回答者の基本属性等

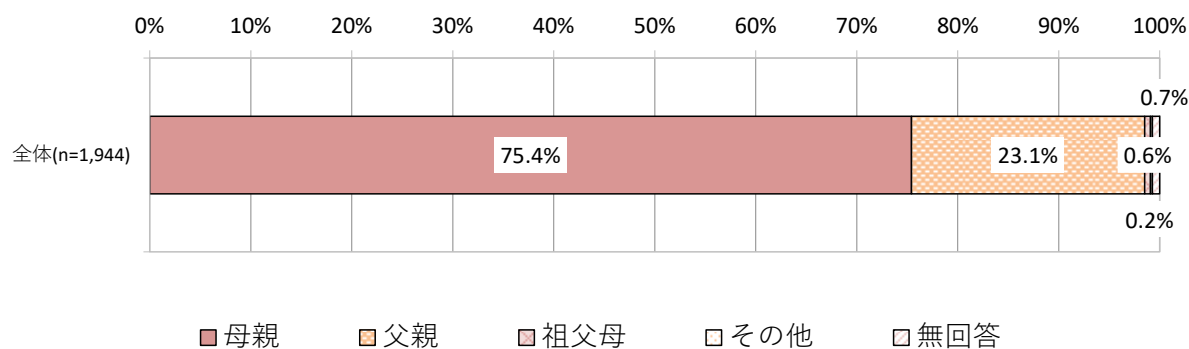
1.2.1. 保護者

(1) 子どもとの続柄

保護者票問1

お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(SA)

調査回答者の、子どもからみた続柄は、「母親（継母を含む。）」が75.4%、「父親（継父を含む。）」が23.1%、「祖父母」が0.6%、「その他」が0.2%となっている。



(2) 居住している市町村

保護者票問2

あなたがお住まいの市町村をお答えください。(SA)

居住する市町村は、「宮崎市」が 32.3%、「延岡市」が 17.3%、「都城市」が 11.0%などとなっている。

市町村名	割合
宮崎市	32.3%
都城市	11.0%
延岡市	17.3%
日南市	3.3%
小林市	2.5%
日向市	3.9%
串間市	1.5%
西都市	1.3%
えびの市	1.5%

市町村名	割合
三股町	2.4%
高原町	0.8%
国富町	2.5%
綾町	1.1%
高鍋町	3.1%
新富町	3.0%
西米良村	0.3%
木城町	1.0%
川南町	2.9%

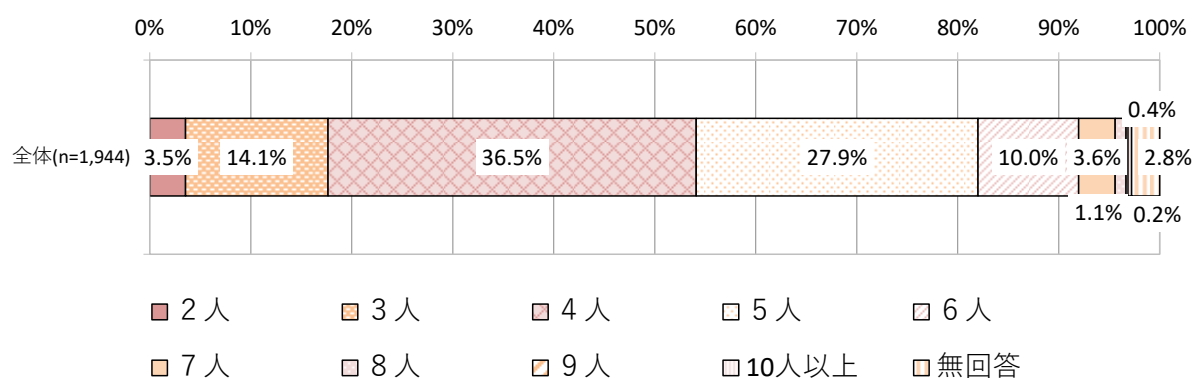
市町村名	割合
都農町	1.2%
門川町	2.2%
諸塚村	0.2%
椎葉村	0.5%
美郷町	0.8%
高千穂町	1.9%
日之影町	0.5%
五ヶ瀬町	0.4%
無回答	0.4%

(3) 同居家族の人数

保護者票問3

お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。(SA)

子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数は、「4人」が36.5%、「5人」が27.9%、「3人」が14.1%となっている。

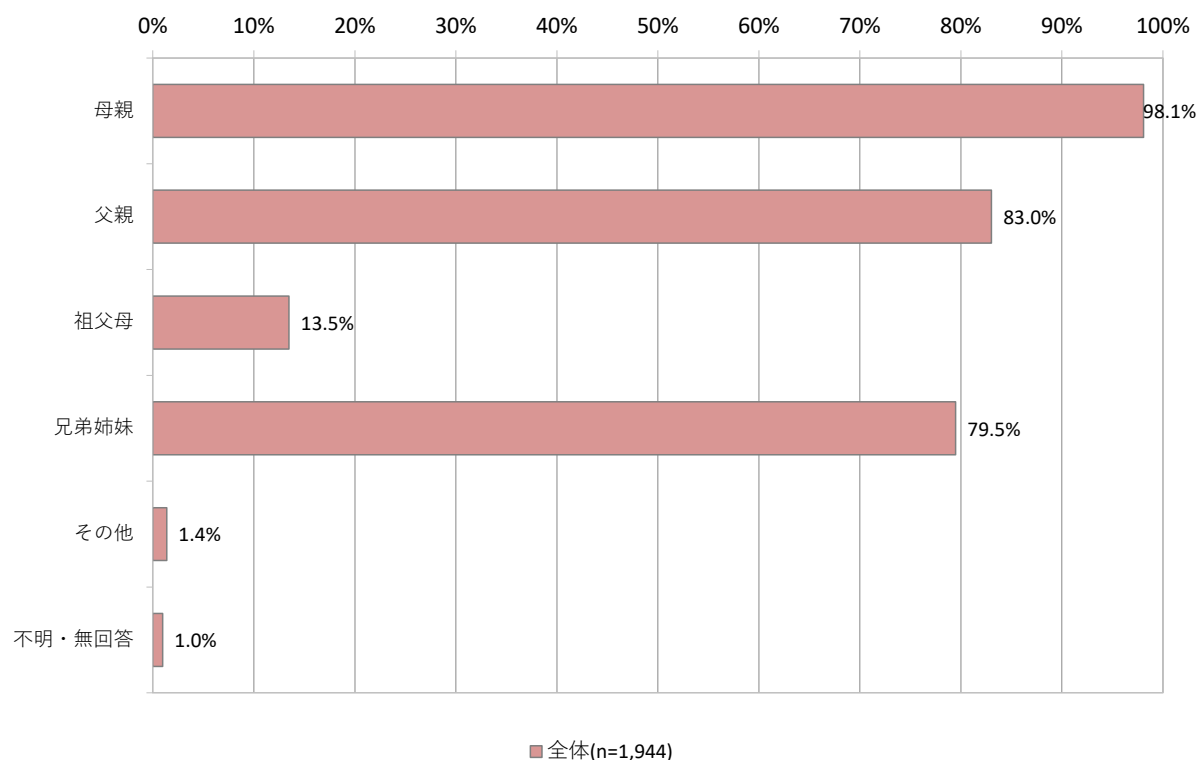


(4) 同居家族に含まれる方

保護者票問3

お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。(SA)

子どもと同居し、生計を同一にしている家族に含まれる方としては、「母親」が98.1%、「父親」が83.0%、「祖父母」が13.5%、「兄弟姉妹」が79.5%、「その他」が1.4%となっている。



(5) 親の年齢

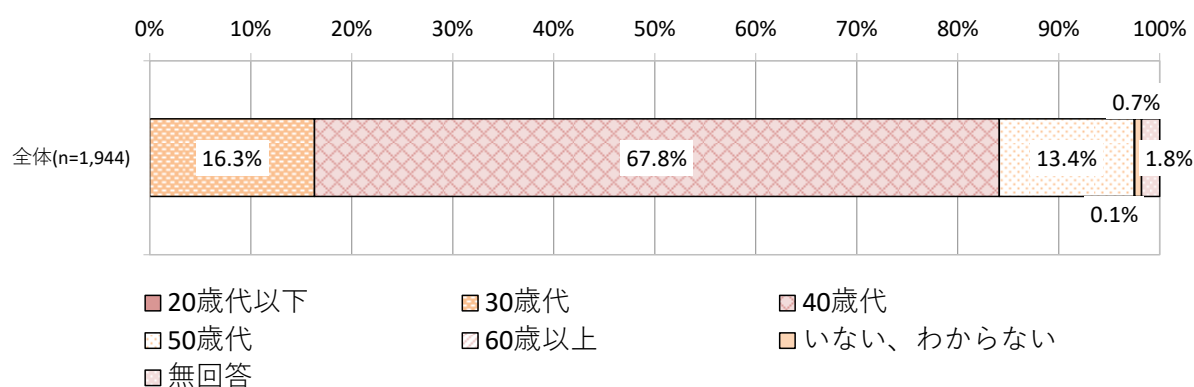
保護者票問4

お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。母親・父親にかわる保護者の方がおられる場合は、その方についてお答えください。(数値記入)

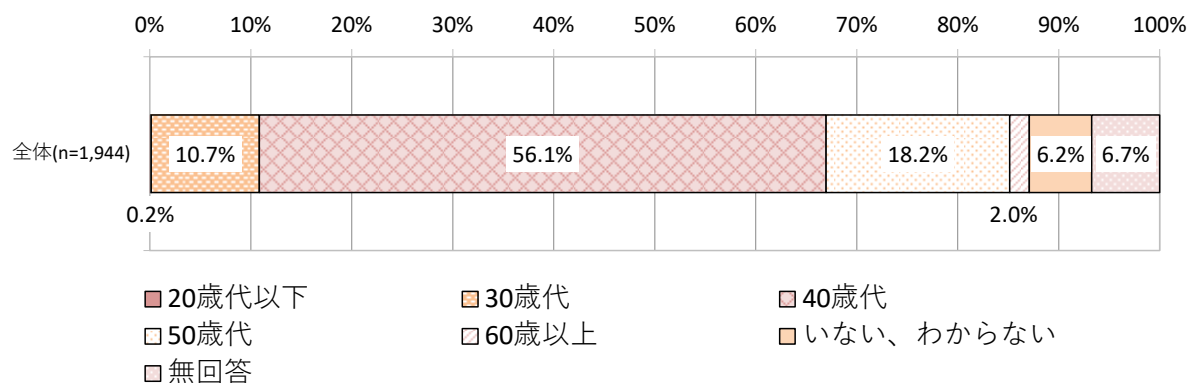
親の年齢に関し、「母親」については、「30歳代」が16.3%、「40歳代」が67.8%、「50歳代」が13.4%、「60歳以上」が0.1%、「いない、わからない」が0.7%となっている。

「父親」については、「20歳代以下」が0.2%、「30歳代」が10.7%、「40歳代」が56.1%、「50歳代」が18.2%、「60歳以上」が2.0%、「いない、わからない」が6.2%となっている。

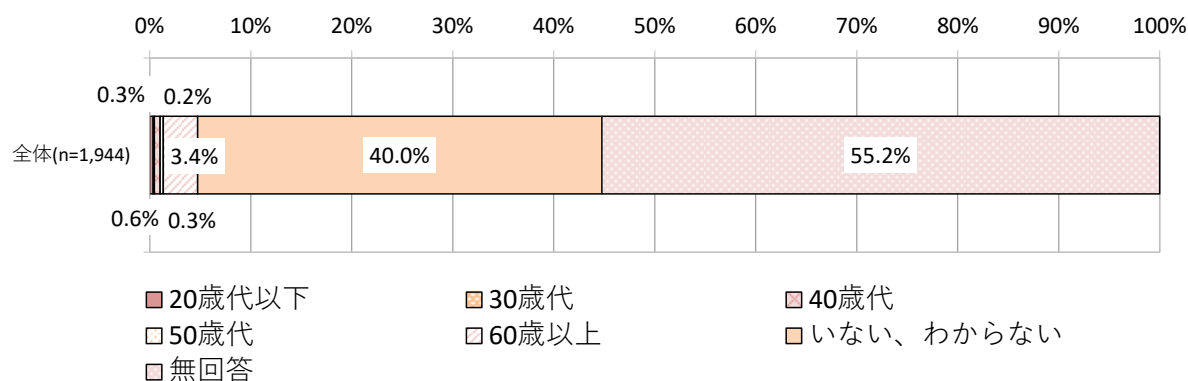
※母親



※父親



※母親・父親にかわる保護者

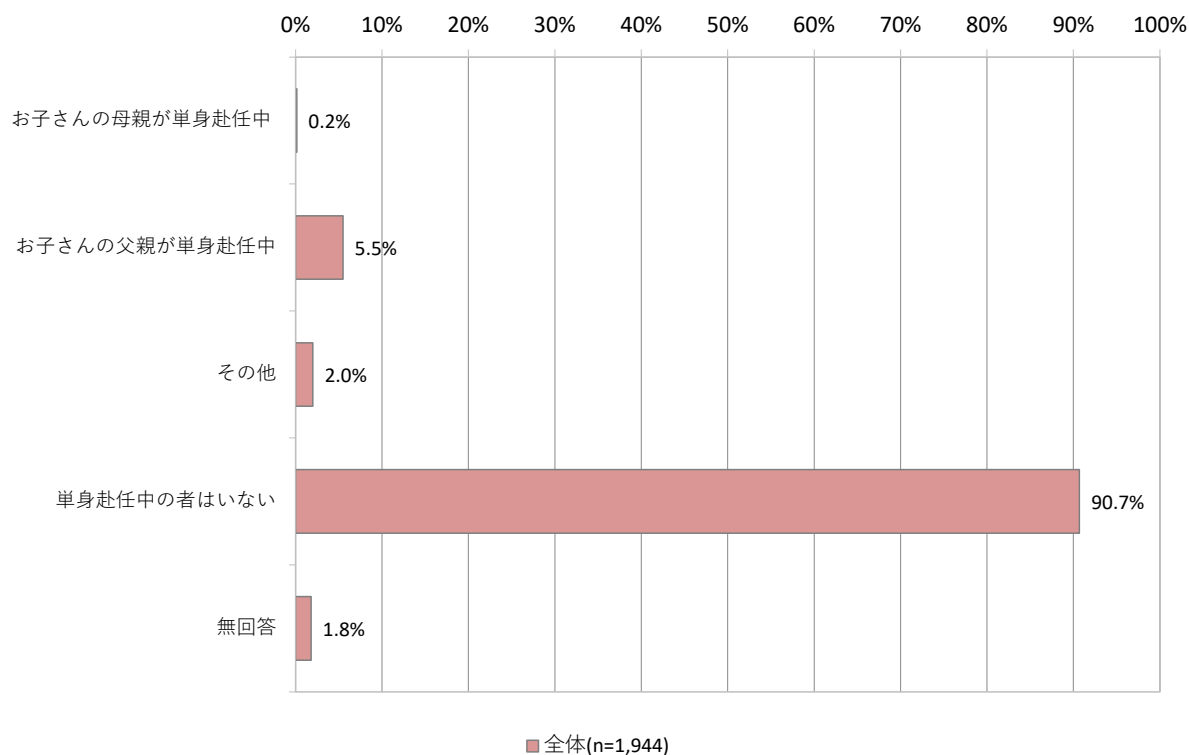


(6) 単身赴任中の家族の有無

保護者票問5

お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。(MA)

単身赴任中の家族の有無は、「お子さんの母親が単身赴任中」が0.2%、「お子さんの父親が単身赴任中」が5.5%、「その他」が2.0%、「単身赴任中の者はいない」が90.7%となっている。



(7) 婚姻の状況

保護者票問6

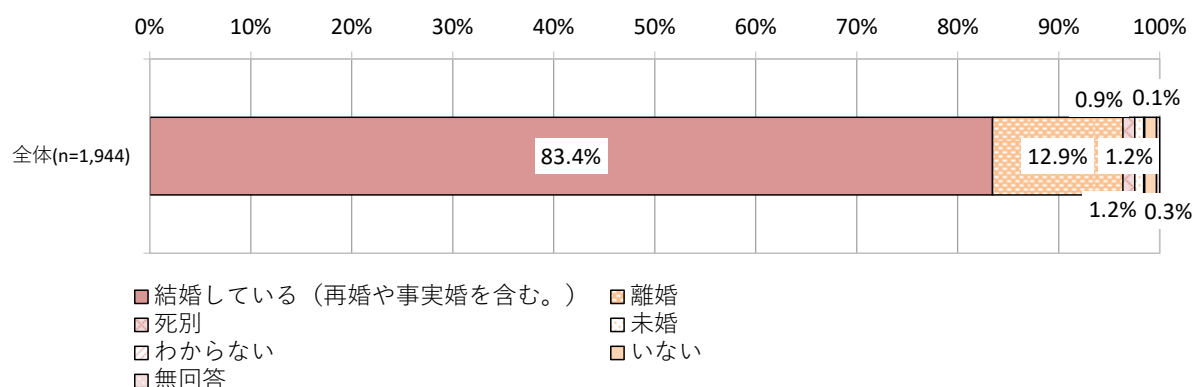
お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(SA)

子どもの親の婚姻状況は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が 83.4%、「離婚」が 12.9%、「死別」が 1.2%、「未婚」が 0.9%となっている。

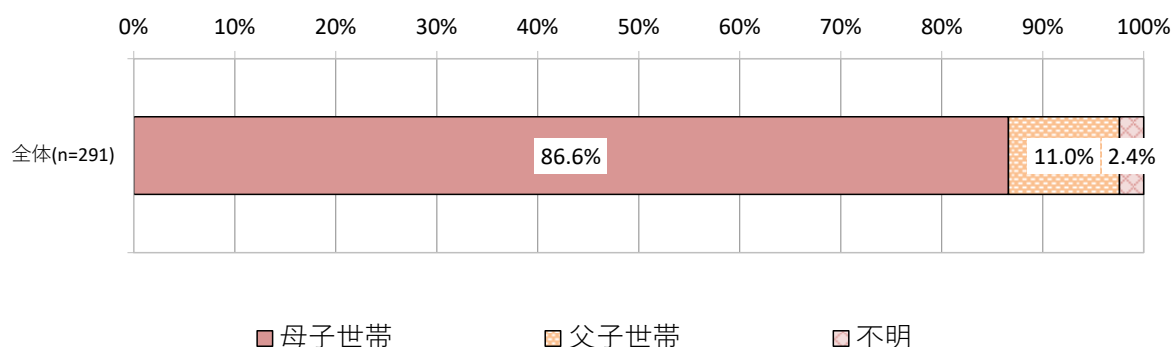
「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて 15.0%であり、これらは「ひとり親世帯」であると考えられる。また、「調査回答者の子どもとの続柄に関する回答」から、「母子世帯」であるか「父子世帯」であるかを判別すると、ひとり親世帯であると考えられる世帯のうち 11.0%は父子世帯となっている。

このほか、「ふたり親世帯」、「ひとり親世帯」それぞれについて、同居家族に祖父母が含まれている割合をみると、「ふたり親世帯」で祖父母と同居している割合は 10.5%、「ひとり親世帯」では 23.4%となっている。

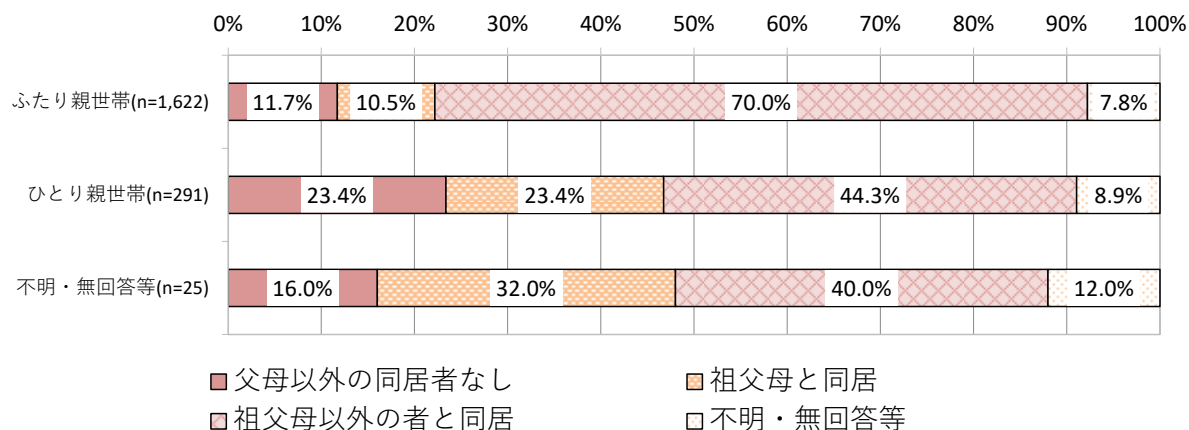
※子どもの親の婚姻状況



※ひとり親世帯の内訳



※祖父母等との同居状況

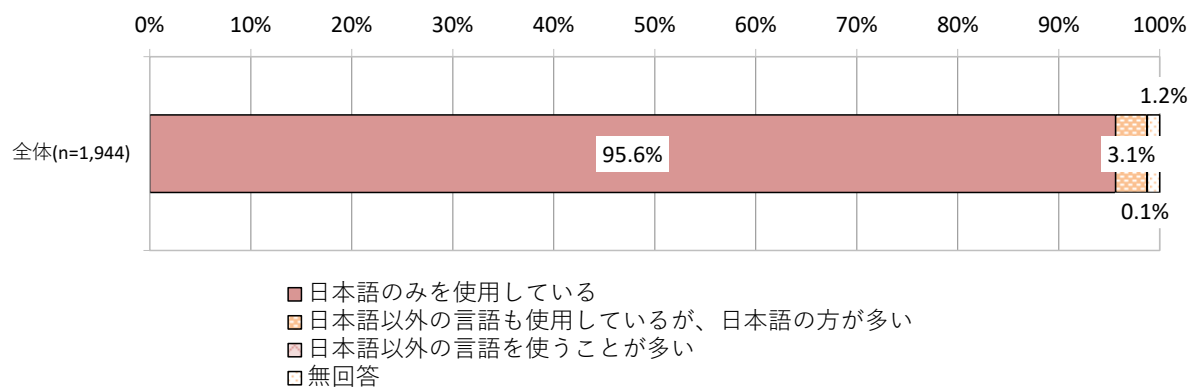


(8) 日本語以外の言語使用

保護者票問 8

ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(SA)

家庭での使用言語については、「日本語のみを使用している」が 95.6%、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が 3.1%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が 0.1%となっている。



(9) 最終学歴（卒業した学校）

保護者票問9

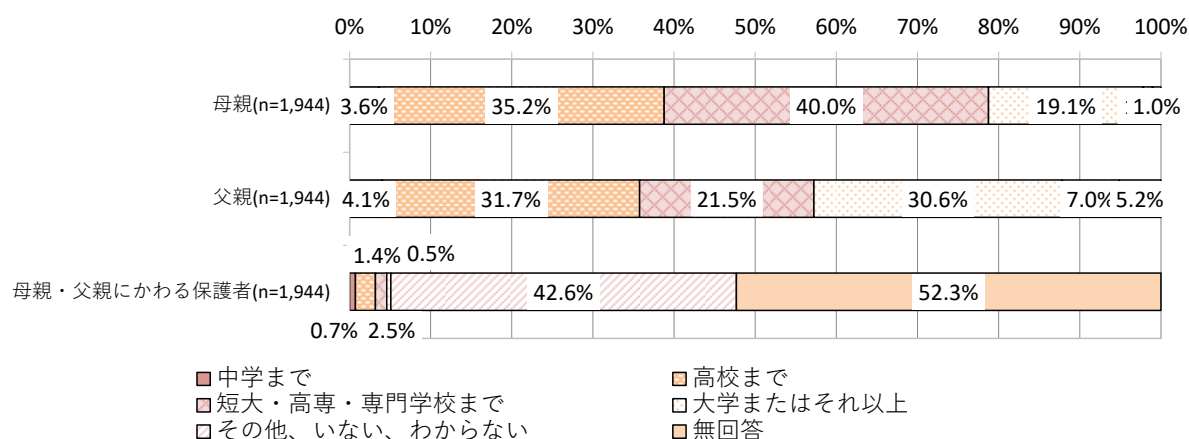
お子さんの親が卒業・修了した学校をお答えください。母親・父親にかわる保護者の方がおられる場合は、その方についてお答えください。(SA)

子どもの親の最終学歴（卒業した学校）に関し、「母親」については、「短大・高専・専門学校まで」が40.0%、「高校まで」が35.2%、「大学またはそれ以上」が19.1%となっている。

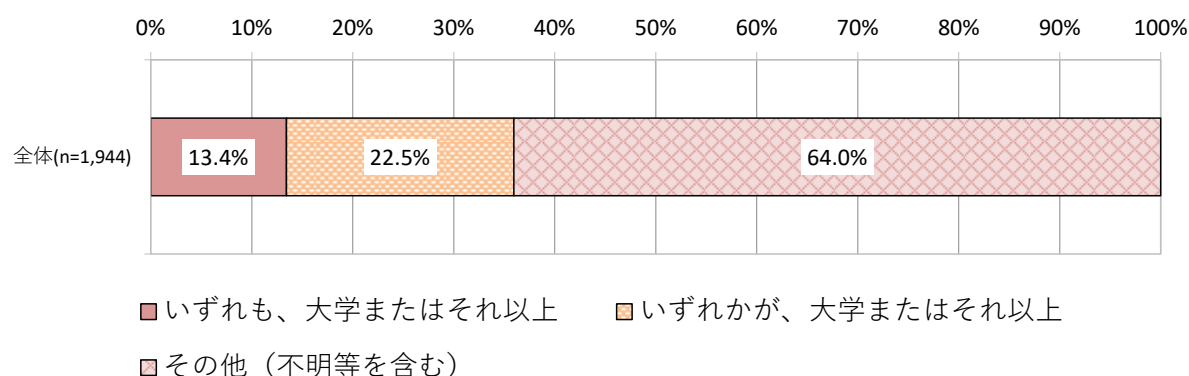
「父親」については、「高校まで」が31.7%、「大学またはそれ以上」が30.6%、「短大・高専・専門学校まで」が21.5%となっている。

母親・父親の最終学歴の組み合わせとして、「いずれも、大学またはそれ以上」、「いずれかが、大学またはそれ以上」、「その他（不明等を含む）」の3つの分類で判別すると、それぞれ、割合は13.4%、22.5%、64.0%となっている。

※保護者の最終学歴



※母親・父親の最終学歴の組み合わせ

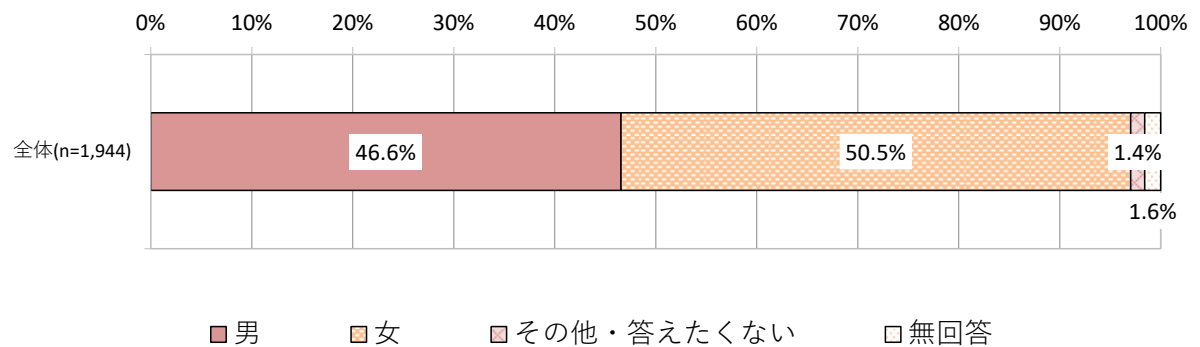


1.2.2.子ども

(1) 性別

中学生票問1
あなたの性別を教えてください。(SA)

調査に回答した子どもの性別は、「男」が46.6%、「女」が50.5%、「その他・答えたくない」が1.4%となっている。



1.3. 分析結果の概要

本報告書では、保護者・子どもの生活状況について、宮崎県内の実態を把握するとともに、「等価世帯収入」の水準と「親の婚姻状況」別に比較分析を行った。分析の結果、世帯収入の水準や親の婚姻状況によって、子どもの学習・生活・心理など様々な面が影響を受けていた。

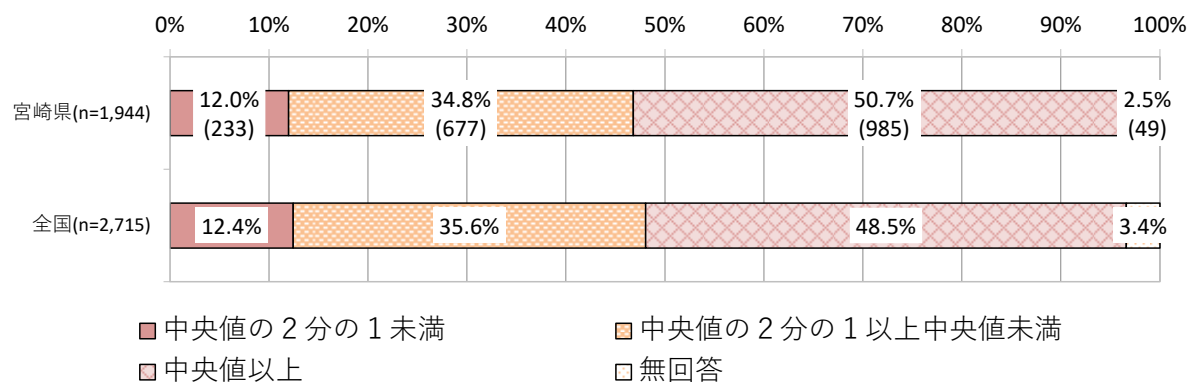
特に「等価世帯収入が中央値の2分の1未満」でもっとも収入が低い水準の世帯や、ひとり親世帯が、親子ともに多くの困難に直面している。ただし、「等価世帯収入が中央値の2分の1以上だが中央値未満」の、いわば収入が中低位の水準の世帯でも、多様な課題が生じていた。

収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活状況がさらに厳しくなっている可能性がある。

1.3.1. 保護者の生活状況

(1) 生活・行動実態、課題等

2021年の世帯全員のおおよその年間収入について、家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」の水準により分類した。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当するのは12.0%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは34.8%、「中央値以上」に該当するのは50.7%であった。

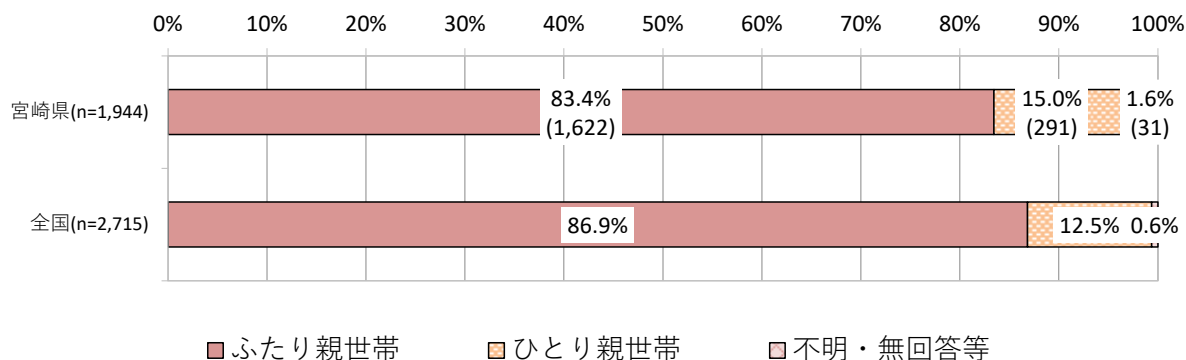


※括弧内の数値は回答者数。

本調査における「等価世帯収入の中央値」は 245.97 万円、「等価世帯収入の中央値の2分の1」は 122.98 万円（参考：全国調査における「等価世帯収入の中央値」は 317.54 万円、「等価世帯収入の中央値の2分の1」は 158.77 万円）。

子どもの親の婚姻状況は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が 83.4%、「離婚」が 12.9%、「死別」が 1.2%、「未婚」が 0.9%であった。「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて 15.0%であり、これらを「ひとり親世帯」として集計した。

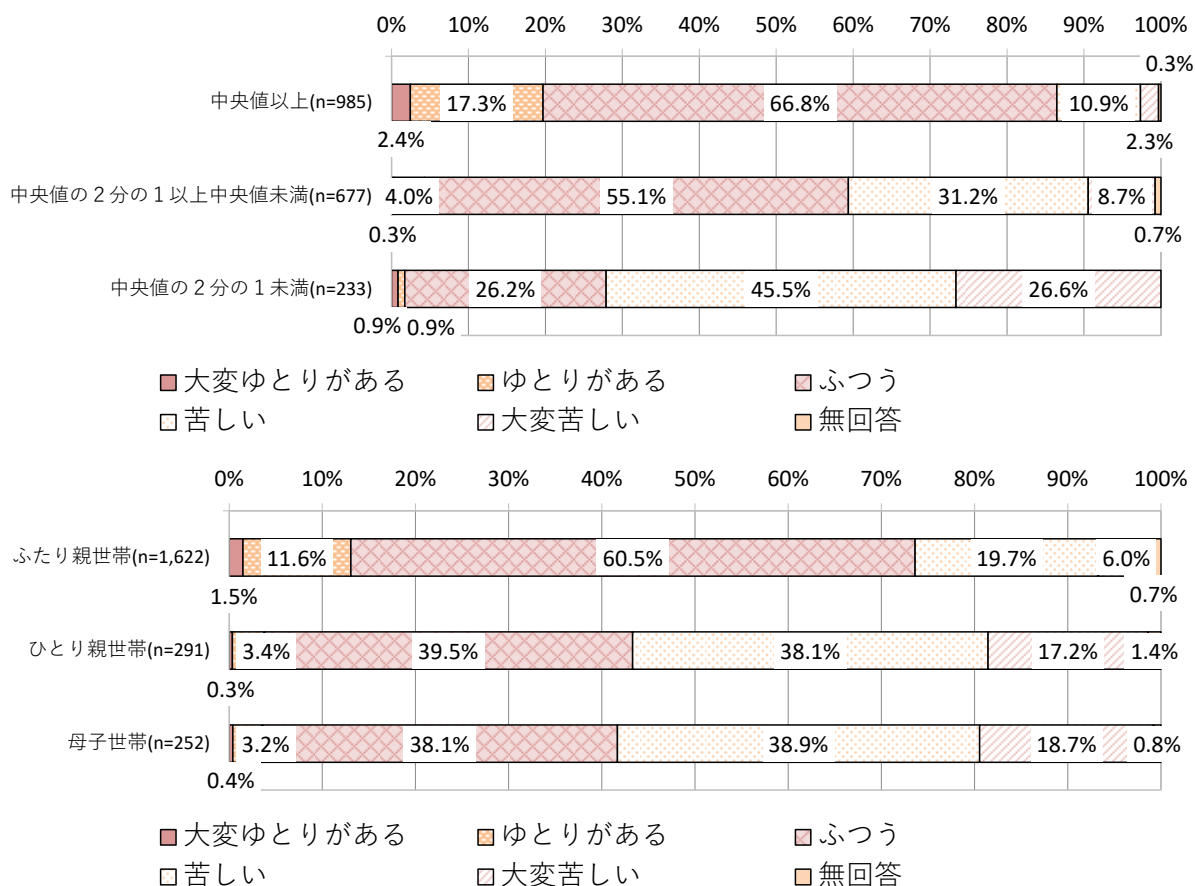
「ひとり親世帯」である割合 15.0%は、全国調査の 12.5%と比較して高い。



※括弧内の数値は回答者数。

現在の暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、ひとり親世帯では全体の約 1.8 倍、もっとも収入の水準が低い世帯では全体の約 2.4 倍に及んだ。

「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合は、全体では 30.1%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の世帯では 39.9%、「中央値の 2 分の 1 未満」の世帯では 72.1%、「ひとり親世帯」全体では 55.3%、「母子世帯」のみでは 57.5%であった。



収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が生じている割合が高い。

「食料が買えなかった経験」が「あった」とする割合は、全体では 17.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 21.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 51.1%、「ひとり親世帯」全体では 38.8%、「母子世帯」のみでは 40.9%であった。

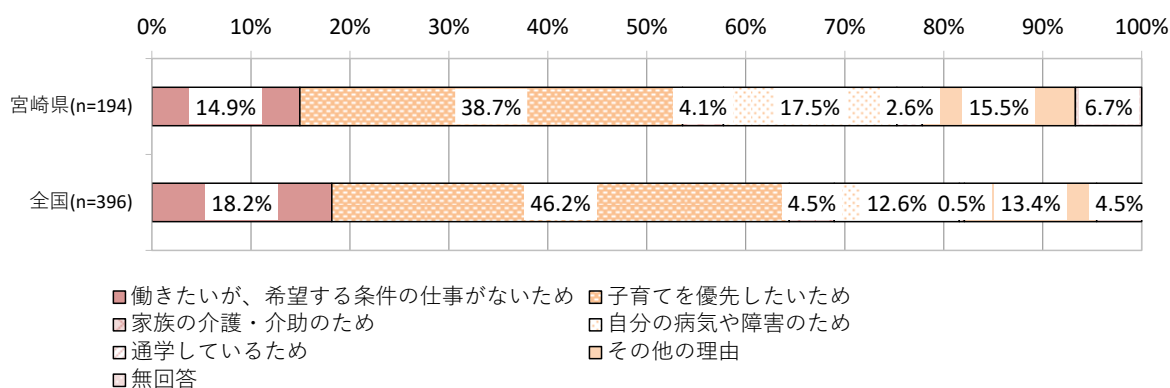
「衣服が買えなかった経験」が「あった」とする割合は、全体では 20.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 26.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 53.2%、「ひとり親世帯」全体では 41.6%、「母子世帯」のみでは 45.2%であった。

「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」のいずれか1つ以上で未払いが発生している割合は、全体では 7.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 8.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 30.0%、「ひとり親世帯」全体では 18.2%、「母子世帯」のみでは 19.4%であった。

母親・父親の学歴の違いや就労状況の違いが収入の水準と関連している。母親・父親が働いていない理由として、収入が低い世帯やひとり親世帯では「病気や障害のため」の回答割合が高い。また、「病気や障害のため」の回答割合は全国調査と比較して高い。

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合は、母親・父親の学歴について「父母のいずれも、大学またはそれ以上」の場合では 3.1%、「父母のいずれかが、大学またはそれ以上」の場合では 5.0%、「その他（不明等を含む）」の場合では 10.9%であった。

母親が働いていない理由として「自分の病気や障害のため」と回答した割合は、全体では 17.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 15.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 46.9%、「ひとり親世帯（母子世帯）」では 58.3%であった。また、全体の「自分の病気や障害のため」と回答した割合 17.5%は、全国調査の 12.6%と比較して高い。



※「母親の働いていない理由」に関する集計結果

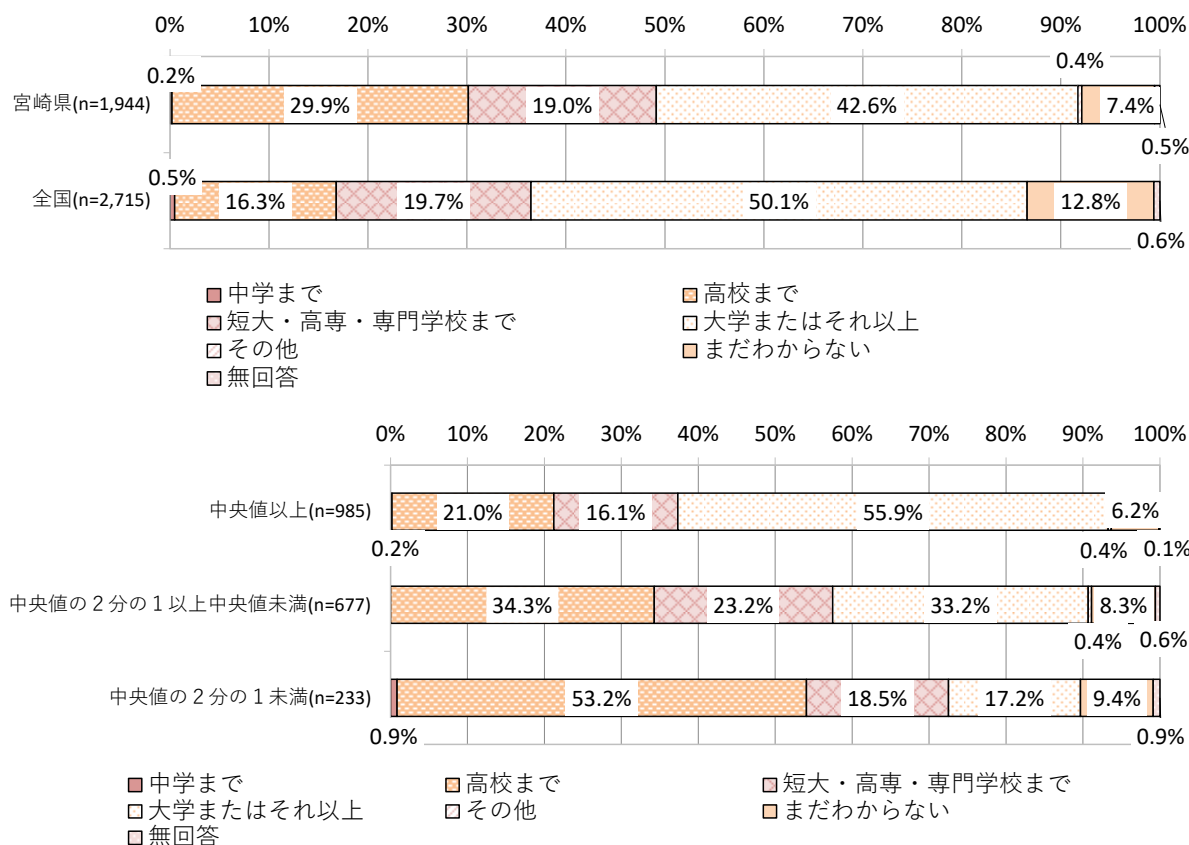
収入の水準や世帯の状況の違いは、「子どもとの関わり方」や「学校との関わり・参加」の状況の差異にも関連する。

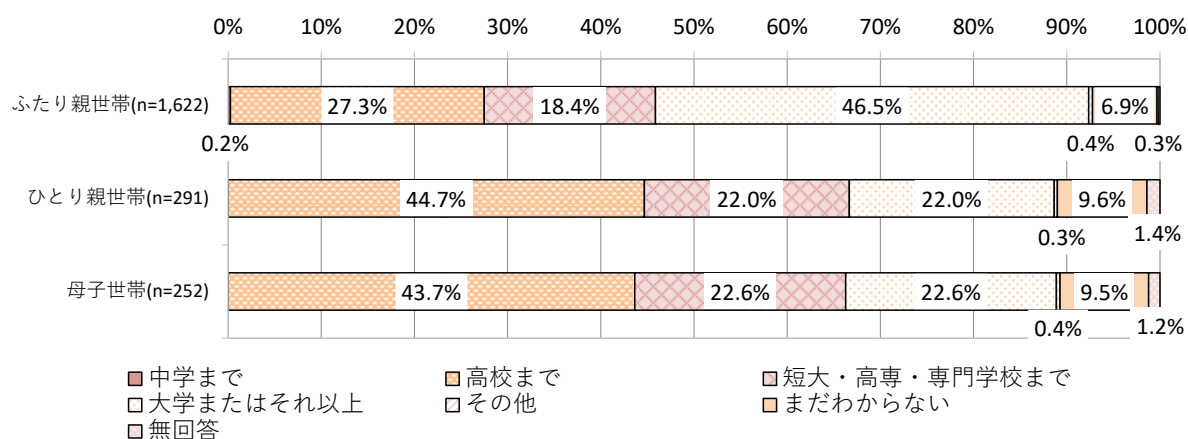
一例として、「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」かについて、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合は、全体では 32.9%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 36.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 34.8%、「ひとり親世帯」全体では 44.0%、「母子世帯」のみでは 42.5%であった。

収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子どもが将来どの段階まで進学するかの希望・展望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。また、「大学またはそれ以上」と回答した割合は全国調査と比較して低い。

「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では 42.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 33.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 17.2%、「ひとり親世帯」全体では 22.0%、「母子世帯」のみでは 22.6%であった。

「大学またはそれ以上」と回答した割合 42.6%は、全国調査の 50.1%と比較して低い。





収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、頼れる人がいないと回答した割合が高い。また、心理的な状況として、うつ・不安障がい疑われる状況にある者の割合が高い。

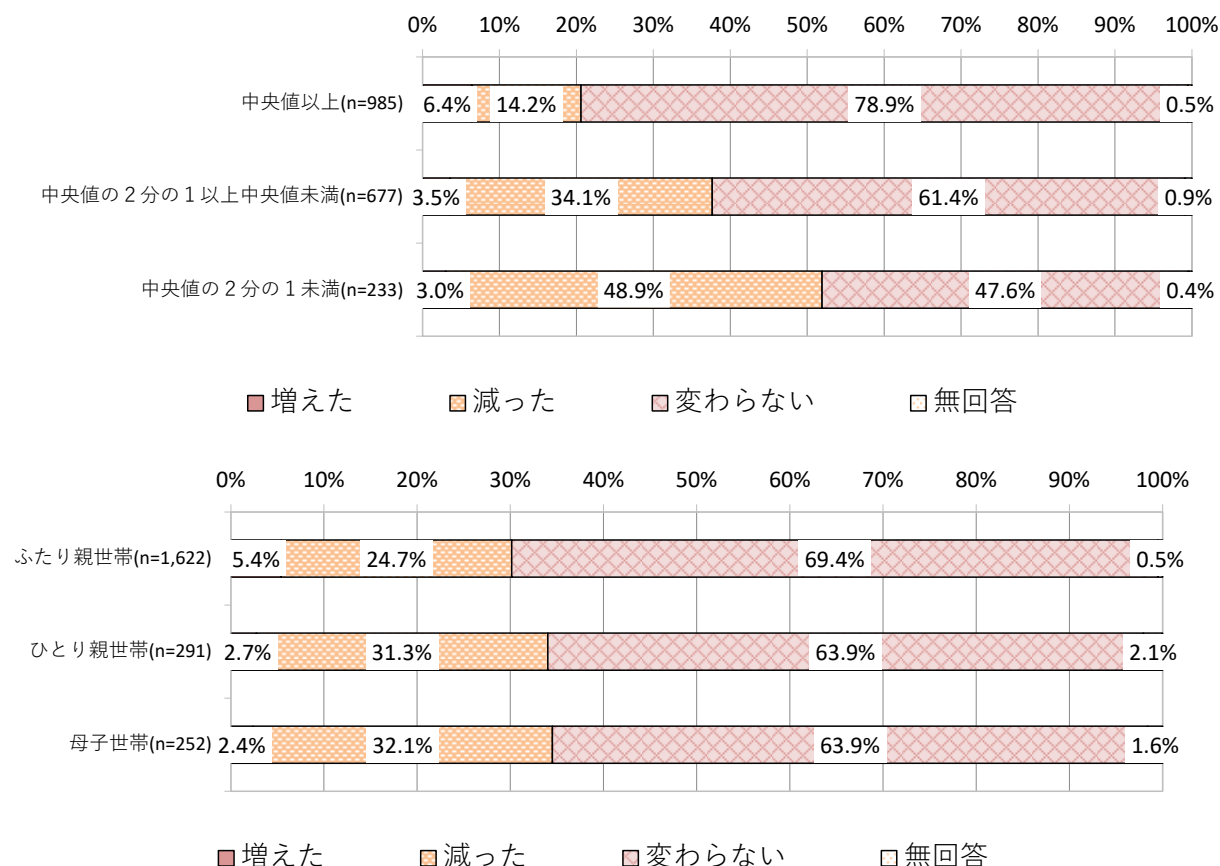
一例として、「いざというときのお金の援助に関して頼れる人」について、「いない」の割合は、全体では 15.1%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 18.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 27.9%、「ひとり親世帯」全体では 28.2%、「母子世帯」のみでは 28.6%であった。

保護者の心理的な状況に関して、「うつ・不安障がい相当」にあると考えられる割合は、全体では 8.2%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 9.5%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 20.2%、「ひとり親世帯」全体及び「母子世帯」のみでは 17.5%であった。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、新型コロナウイルス感染症の拡大による「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合が高い。

「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、全体では 25.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 34.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 48.9%、「ひとり親世帯」全体では 31.3%、「母子世帯」のみでは 32.1%であった。



「生活に必要な支出の変化」、「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について「増えた」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「生活に必要な支出の変化」について「増えた」と回答した割合は、全体では 60.2%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 66.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 72.1%、「ひとり親世帯」全体では 66.0%、「母子世帯」のみでは 66.3%であった。「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」について「増えた」と回答した割合は、全体では 15.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 20.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 41.6%、「ひとり親世帯」全体では 27.5%、「母子世帯」のみでは 29.0%であった。

「あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について「増えた」と回答した割合は、全体では 32.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 38.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 44.2%、「ひとり親世帯」全体では 40.5%、「母子世帯」のみでは 42.9%であった。

新型コロナウイルス感染症の拡大による世帯の収入の変化は、現在の保護者の心理的な状況の差異にも関連する。

「うつ・不安障がい相当」にあると考えられる割合は、「世帯全体の収入の変化」について「増えた」と回答した場合は 5.2%、「変わらない」と回答した場合は 6.2%、「減った」と回答した場合は 14.1%であった。

(3) 支援の利用状況等

支援制度の利用状況について、収入の水準がもっとも低い世帯でも、「就学援助」や「児童扶養手当」の利用割合は5割前後であり、「生活保護」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」の利用割合は1割未満と低い。

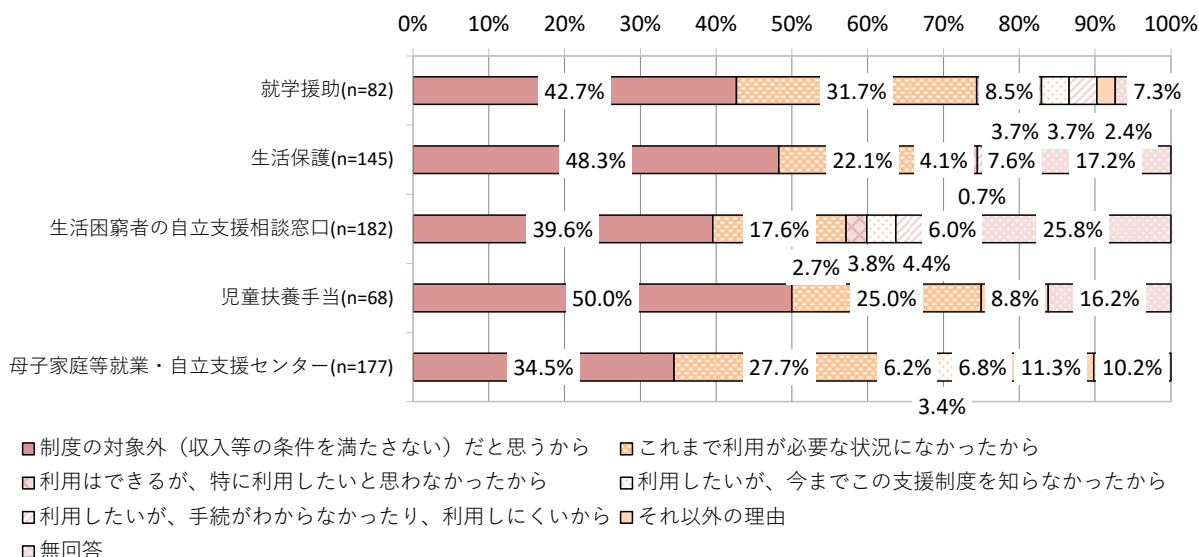
等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯で、「現在利用している」との回答割合は、「就学援助」は54.1%、「児童扶養手当」は46.4%であった。「生活保護」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」は、いずれも1割未満であった。

「ひとり親世帯」全体で「現在利用している」との回答割合は、「就学援助」は51.9%、「児童扶養手当」は66.3%であった。「母子世帯」のみでは、「就学援助」は57.1%、「児童扶養手当」は69.8%であった。

収入の水準がもっとも低い世帯では、各支援制度を利用していない理由について、「就学援助」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」に関しては、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答が約1割となっている。

等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯で、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答は、「就学援助」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」に関しては約1割であった。

「ひとり親世帯」で、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答は、「就学援助」、「母子家庭等就業・自立支援センター」に関しては約1割であった。



※「等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯」における集計結果

1.3.2. 子どもの生活状況

(1) 生活・行動実態、課題等（「貧困の連鎖」等のリスクの状況）

収入の水準がもっとも低い世帯やひとり親世帯では、学校への通学頻度について「毎日」と回答した割合が低い。

学校への通学頻度について「毎日（週5日）」と回答した割合は、全体では94.4%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では88.8%、「ひとり親世帯」全体では87.3%、「母子世帯」のみでは87.7%であった。

「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合、学校がある日に授業以外の勉強を「まったくしない」と回答した割合は、収入の水準がもっとも低い世帯で高い。

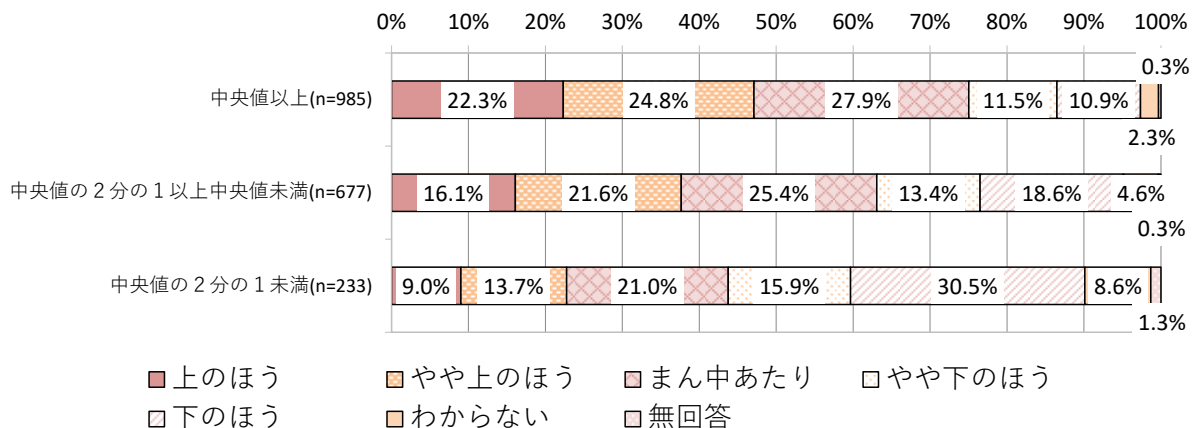
「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、全体では5.2%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では5.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では10.3%であった。

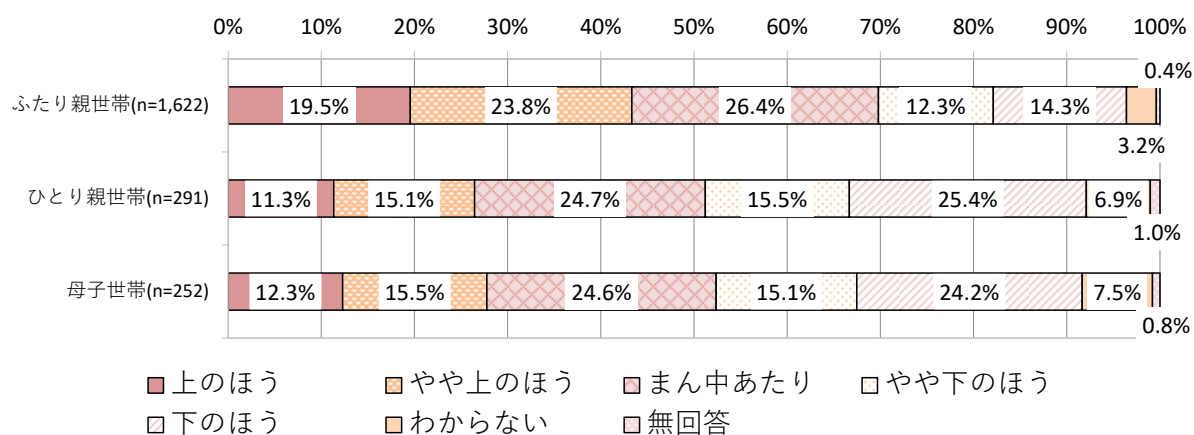
学校がある日に学校の授業以外の勉強を「まったくしない」と回答した割合は、全体では3.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では3.7%、「中央値の2分の1未満」の世帯では8.2%であった。

クラスの中での成績について「下のほう」と回答した割合、学校の授業について「わからない」と回答した割合は、それぞれ収入の水準がもっとも低い世帯やひとり親世帯で高い。

クラスの中での成績について「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、全体では29.0%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では32.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では46.4%、「ひとり親世帯」全体では40.9%、「母子世帯」のみでは39.3%であった。

学校の授業について「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた割合は、全体では9.2%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では9.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では17.2%、「ひとり親世帯」全体では14.1%、「母子世帯」のみでは13.9%であった。

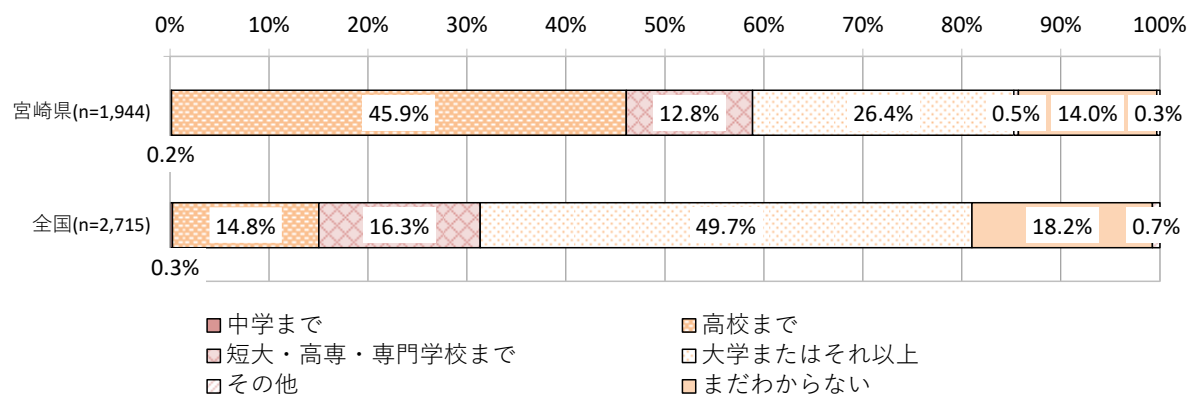




※「クラスの中での成績」に関する集計結果

収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。また、「大学またはそれ以上」と回答した割合は全国調査と比較して低い。

「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では 26.4%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 22.7%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 12.4%、「ひとり親世帯」全体では 16.2%、「母子世帯」のみでは 17.1%であった。また、全体の「大学またはそれ以上」と回答した割合 26.4%は、全国調査の 49.7%と比較して低い。



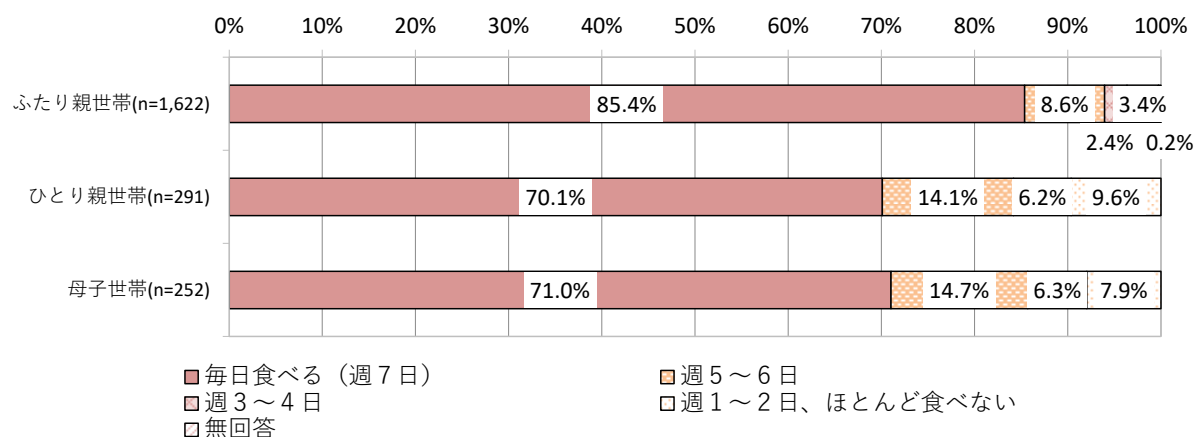
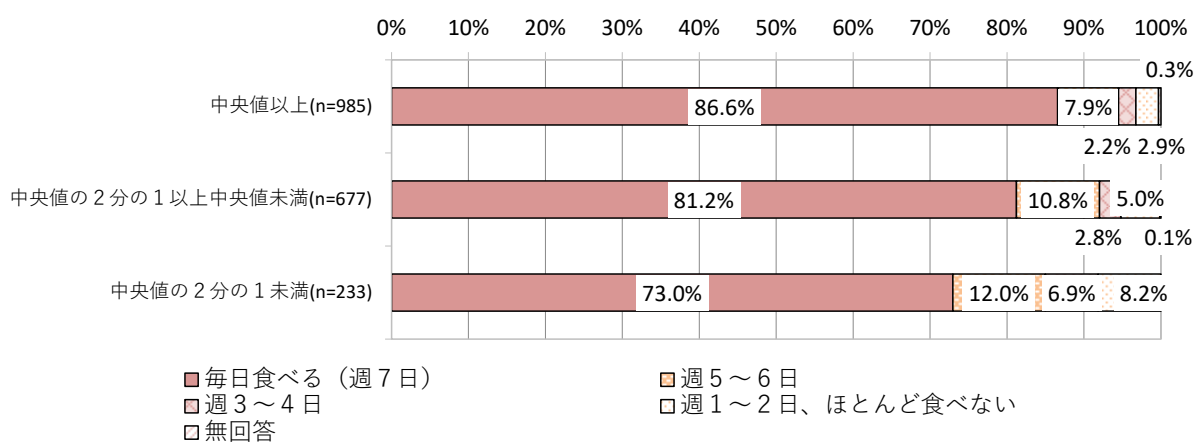
収入の水準がもっとも低い世帯やひとり親世帯では、「朝食」や「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」、「土・日曜日・祝日の昼食」について「毎日食べる」と回答した割合が低い。また、就寝時間についてほぼ同じ時間に寝ていると回答した割合が低い。

「朝食」について「毎日食べる（週7日）」と回答した割合は、全体では83.1%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では81.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では73.0%、「ひとり親世帯」全体では70.1%、「母子世帯」のみでは71.0%であった。

「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について「毎日食べる（週7日）」と回答した割合は、全体では86.5%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では86.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では79.0%、「ひとり親世帯」全体では77.7%、「母子世帯」のみでは76.6%であった。

「土・日曜日・祝日の昼食」について「毎回食べる」と回答した割合は、全体では90.9%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では90.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では85.8%、「ひとり親世帯」全体では83.2%、「母子世帯」のみでは82.5%であった。

「ふだんほぼ同じ時間に寝ているか」について、「そうである」と回答した割合は、全体では33.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では32.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では28.8%、「ひとり親世帯」全体では27.5%、「母子世帯」のみでは27.4%であった。



※「朝食」に関する集計結果

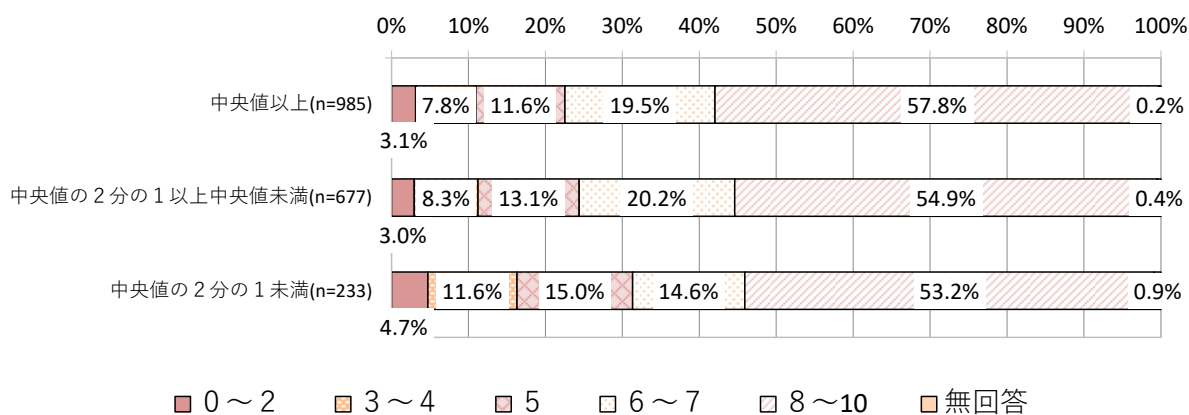
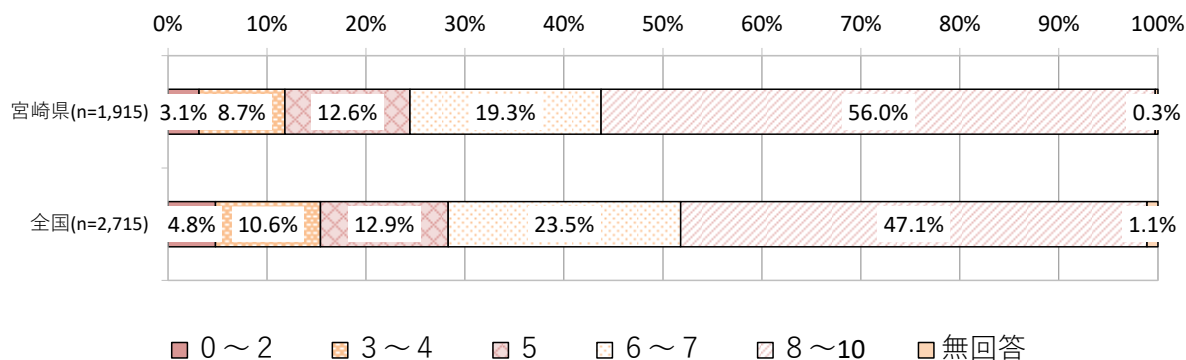
収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、部活動等に参加していない割合が高い。また、部活動に参加していない理由として、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「費用がかかるから」と回答した割合が高い。

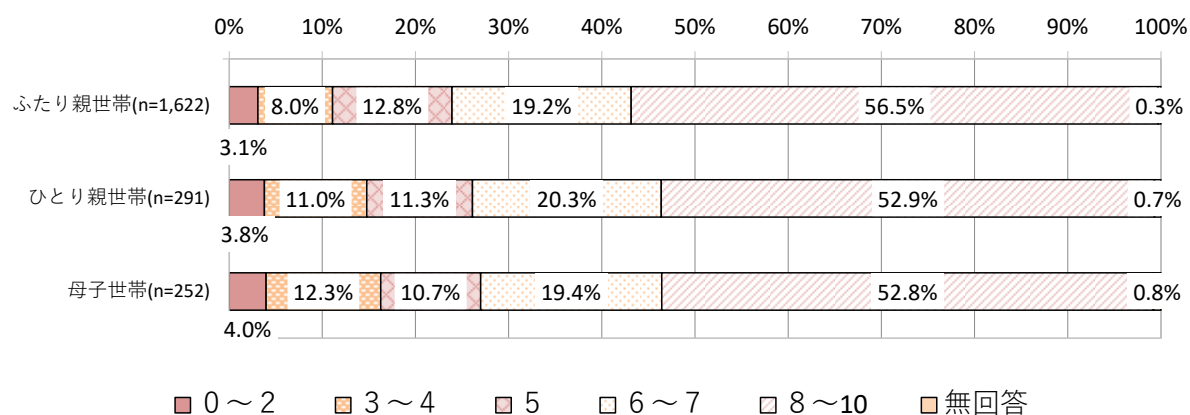
部活動等に「参加していない」と回答した割合は、全体では14.6%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では16.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では29.2%、「ひとり親世帯」全体では26.1%、「母子世帯」のみでは25.4%であった。

部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答した割合は、全体では11.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では10.9%、「中央値の2分の1未満」の世帯では22.1%、「ひとり親世帯」全体では18.4%、「母子世帯」のみでは17.2%であった。

収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、生活満足度が低い。また、生活満足度は全国調査と比較して高い。

生活満足度について、「6～10」（満足度が高い方の回答）に該当する割合は、全体では75.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では75.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では67.8%、「ひとり親世帯」全体では73.2%、「母子世帯」のみでは72.2%であった。また、「6～10」（満足度が高い方の回答）に該当する割合75.3%は、全国調査の70.5%と比較して高い。





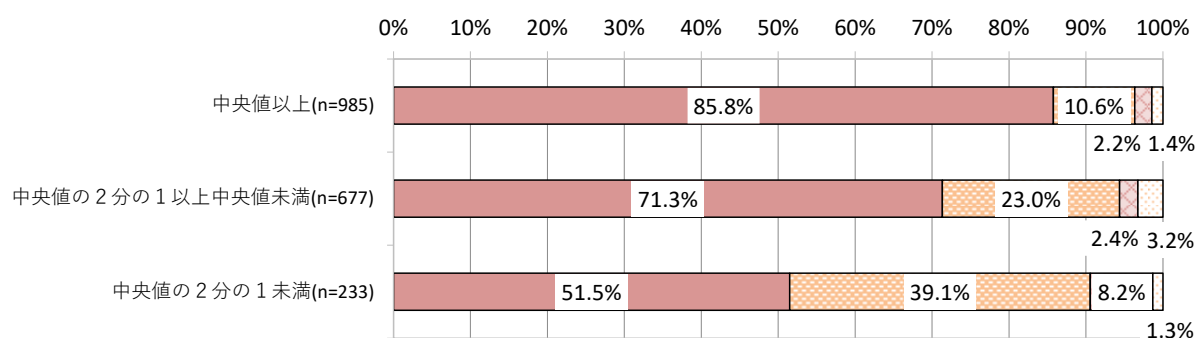
子どもの心理的な状況に関して、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「情緒の問題」のスコアが高い。

「強さと困難さアンケート」のうち、「情緒の問題」に関するスコア（値が高い方が課題があると考えられる）の平均値は、全体では 3.22 であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 3.28、「中央値の2分の1未満」の世帯では 3.64、「ひとり親世帯」全体では 3.48、「母子世帯」のみでは 3.51 であった。

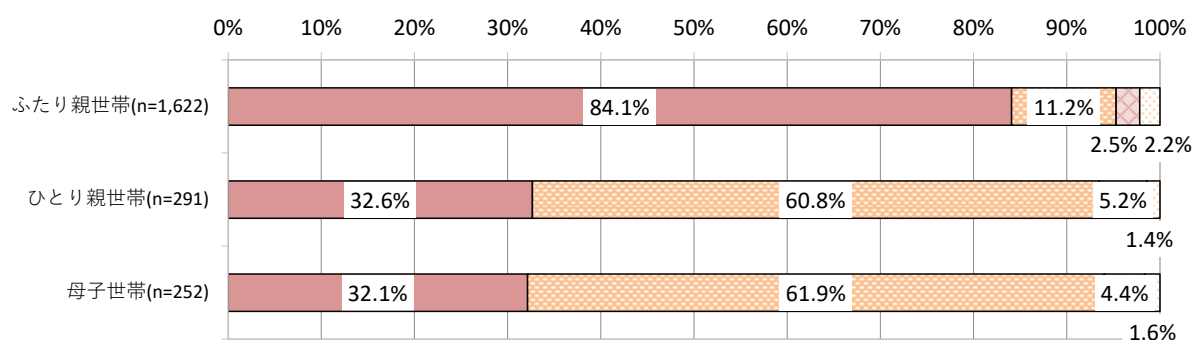
収入の水準が低い世帯では、「逆境体験」を経験している割合が高い。また、「逆境体験」を経験している場合には、現在の生活満足度が低いという関連性がある。

「逆境体験」に関する8項目について、「ひとつもあてはまらない（0個）」と回答した割合は、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯では85.8%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では71.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では51.5%であった。

生活満足度の平均値は、逆境体験について0個の場合では7.58、1個以上該当する場合には6.62であった。



■ひとつもあてはまらない ■1～2個あてはまる
 ■3個以上あてはまる □無回答



■ひとつもあてはまらない ■1～2個あてはまる
 ■3個以上あてはまる □無回答

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「増えた」と回答した割合は、全体では 26.7%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 28.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 38.6%、「ひとり親世帯」全体では 35.4%、「母子世帯」のみでは 35.7%であった。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって学校の授業がわからないと感じることが増えることと、現在の生活満足度には関連性がみられる。

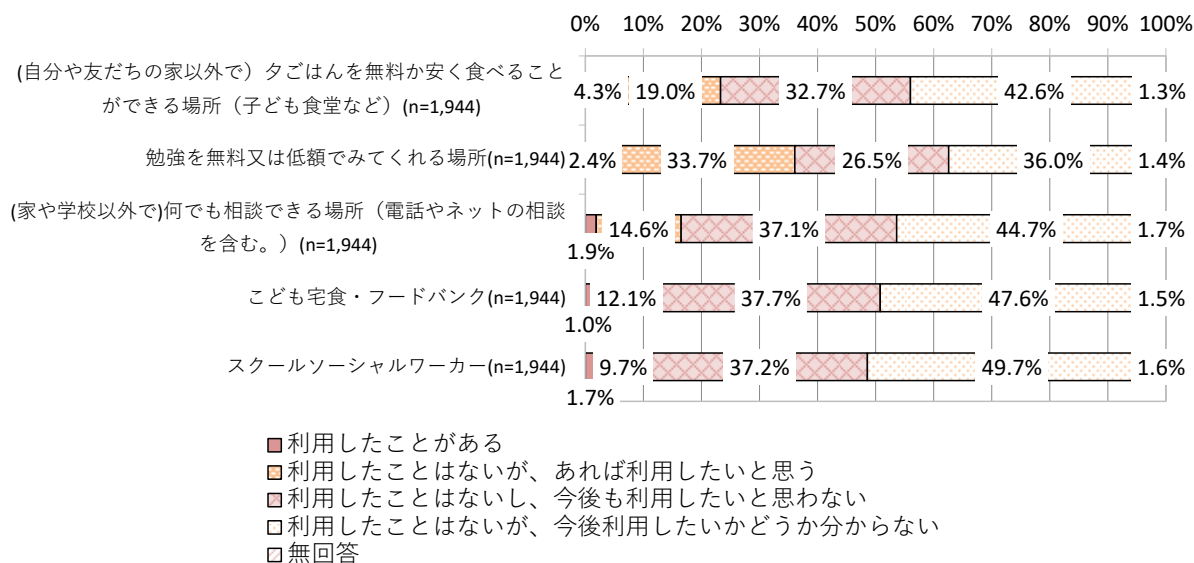
生活満足度の平均値は、「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した場合は 6.74、「変わらない」と回答した場合は 7.55、「減った」と回答した場合は 7.89 であった。

(3) 支援の利用状況等

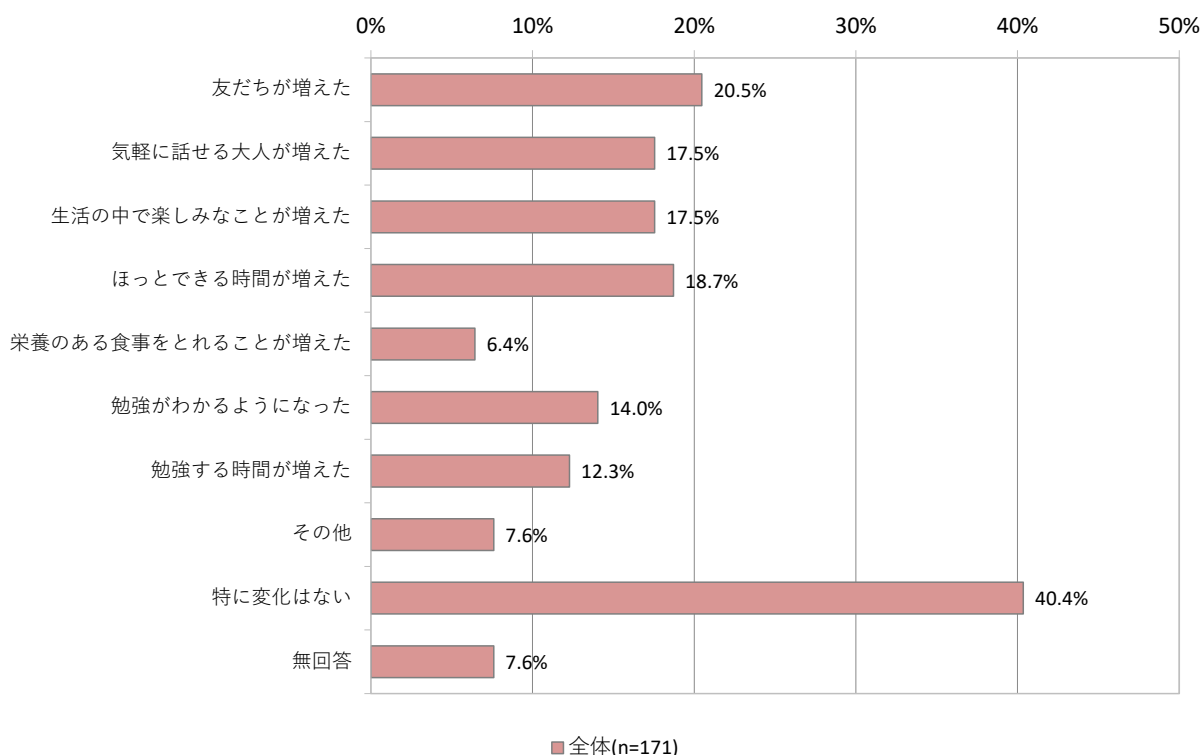
支援制度・居場所等の利用状況について、例えば、「勉強を無料又は低額でみてくれる場所」を利用したことがある子どもの割合は全体の2.4%である。ただし、33.7%が「あれば利用したいと思う」と回答している。

支援制度・居場所等の利用によって、「友だちが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「気軽に話せる大人が増えた」「生活の中で楽しみなことが増えた」などの変化が認識されている。

利用による変化をどのように考えているかについて、全体では、「友だちが増えた」が20.5%、「ほっとできる時間が増えた」が18.7%、「気軽に話せる大人が増えた」と「生活の中で楽しみなことが増えた」がそれぞれ17.5%であった。



※「支援制度・居場所等の利用状況」に関する集計結果



※「支援制度・居場所等の利用による変化」に関する集計結果